



Improving Safety

交通事故のないクルマ社会へ

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客様のために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119



■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・	
2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客様のために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119

安全技術の向上と啓発活動で、 交通事故のないクルマ社会を目指す

“走る楽しさと豊かさ”にあふれたクルマづくりを目指す日産は、高い信頼性と安全性の確保を、運転する人だけでなく、歩行者や他車の乗員を含めた、クルマ社会すべてにかかわる問題として取り組んでいます。危険に対する未然の回避、万一の事故に際して、被害を最小限にとどめる安全技術の開発は、各国から集められた事故データを分析し、忠実な再現実験などにより、改良と開発のプロセスを続けています。

また、クルマの性能面だけでなく、安全意識向上の啓発活動や、ITS*を活用した運転環境改善なども積極的に推進しています。日産は、環境保護や省エネルギーへの対応はもちろん、自動車メーカーとして安全を基本にしたクルマづくりをつねに進化させています。

※ITS: Intelligent Transport Systems (高度道路交通システム)

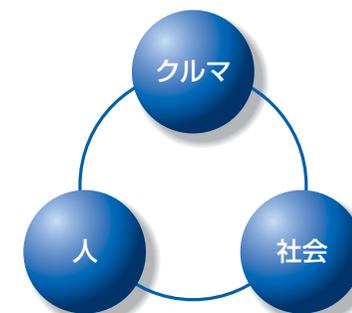
安全を基本としたクルマづくり

リアルワールドセーフティ、真に安全なクルマ社会を実現するために

統計によると、世界では1年間に約100万人もの人びとが交通事故により尊い命を失っています。2006年の日本での交通事故死亡者数は6,352人で、2年連続で7,000人を下回りましたが、依然として、事故発生件数の大幅な減少には至っていません。

日産は従来から、リアルワールドセーフティというコンセプトのもと、2015年までに、日産車がかかわる死亡・重傷者数を半減させる(1995年比)目標を掲げ、安全なクルマづくりに取り組んでいます。すでに、日本における日産車が関与した事故の1万台あたりの死亡・重傷者数は、2004年には1995年比で27%減、2005年には34%の減少を達成し、着実な成果を上げています。(出典: (財)交通事故総合分析センター)

日産は、現実の世の中(リアルワールド)で発生している交通事故データをグローバルに収集し、科学的にその発生原因・傾向を分析しています。さらにシミュレーションや衝突実験場での実験によって課題を明確にし、安全技術の改善を図るとともに、いかに安全な状態を維持できるかという、一歩進んだ技術



Link

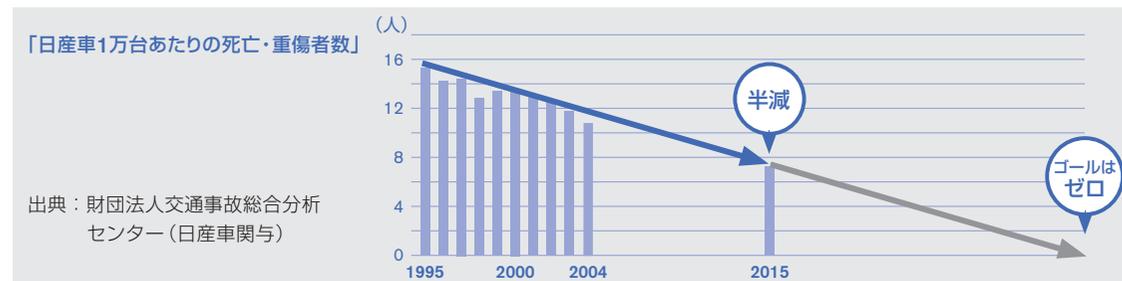
安全の取り組みに関する詳しい情報は、次のホームページに記載しています。あわせてご覧ください。
<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/>

安全への配慮

102 Nissan Sustainability Report 2007

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・	
2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客さまのために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119

開発にも力を注いでいます。事故分析→事故再現→安全技術開発という継続的なプロセスの運用で技術を進化させ、真に安全なクルマ社会の実現を目指す日産は、「近い将来において死亡・重傷事故をゼロにする」ことを目標に、安全技術向上を進めています。



「クルマが人を守る」、より高度で積極的な安全へのアプローチ

2004年から日産では、セーフティ・シールド「クルマが人を守る」という、より高度で積極的な安全に対する独自の考え方に基づいた技術開発を推進しています。これはクルマがおかれている状態を、「危険が顕



SAFETY SHIELD

危険が顕在化していない

- ・ 車間維持支援システム
- ・ インテリジェントクルーズコントロール（低速追従機能付）
- ・ アクティブAFS
- ・ アラウンドビューモニター

いつでも安心して運転できるようドライバーをサポートします。

危険が顕在化している

- ・ レーンデパーチャーワーニング
- ・ レーンデパーチャープリベンション
- ・ 4輪アクティブステア

危険な状態になりそうなときも安全な状態に戻すようドライバーをサポートします。

衝突するかもしれない

- ・ ABS（アンチロックブレーキシステム）
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

万一衝突が避けられないときに被害を最小限にとどめます。

衝突が避けられない

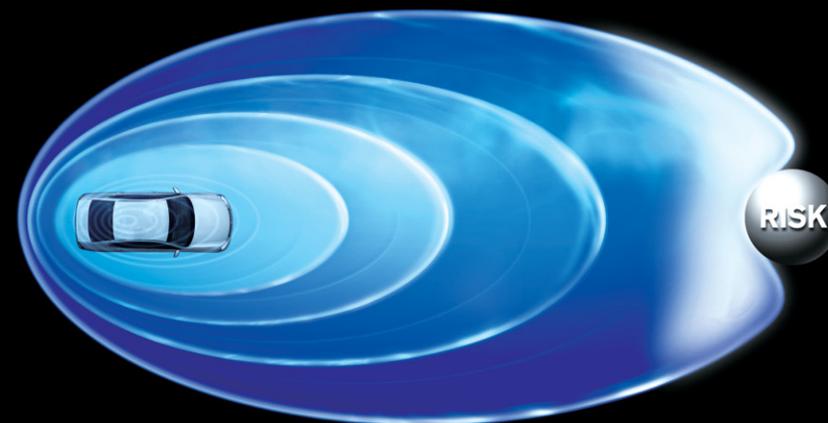
- ・ インテリジェントブレーキアシスト
- ・ 前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト

衝突

- ・ ソーンボディ
- ・ SASエアバッグシステム
- ・ アクティブヘッドレスト

衝突後

- ・ ヘルプネット



■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
●日産のCSRの発展プロセス	11
●日産CSR重点9分野	17
●日産CSRスコアカード	20
●ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
●「日産バリューアップ」進捗状況・	
2006年度決算概況	26
●コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
●お客さまのために	37
●株主・投資家の皆さまとともに	44
●社員とともに	46
●ビジネスパートナーとともに	54
●社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
●パフォーマンスデータ	116
●事業等のリスク	118
●第三者意見書	119

在化していない]状態から「衝突後」に至るまで、6つの段階としてとらえ、それぞれの状態において発生する危険要因に対して、最適なバリア機能を働かせ、少しでも危険に近づけないようサポートする考え方です。

開発にあたっては、運転の主体は人であるという視点に立ち、ドライバーの運転をサポートすることに主眼をおいています。これは、ドライバーに適切な情報を伝え、ドライバーの意図通りに反応するシステムの開発を推進していくことです。危険が顕在化していない通常運転時には、ドライバーの運転負荷を軽減し、運転に集中できるサポートを提供します。そして、万一衝突の避けられない状況に遭遇した場合には、クルマ自体のシステムが作動し、ドライバーの操作をサポート。衝突に備えて被害を軽減させる技術を提供します。

2007年度には車間維持支援システム、レーンデパーチャープリベンション、アラウンドビューモニターなどを世界初の技術として投入します。

新技術紹介

いつでも安心して運転できるようドライバーをサポートします

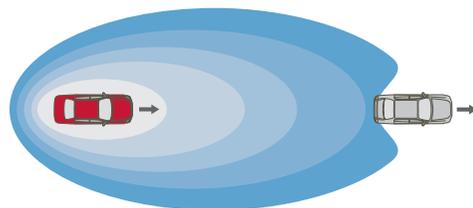
車間維持支援システム

車両前部に設置したレーダーセンサーによって検出した、先行車両との車間距離と相対速度に応じて、先行車両との車間距離を維持。ドライバーがアクセルペダルを戻したとき、あるいは踏んでいないときにはシステムがブレーキを作動させ、ドライバーが車間を維持することを支援。ドライバーのブレーキ操作が必要とシステムが判断した場合には、音と表示でドライバーへ報知し、アクセルペダルを戻す方向に力を発生させ、ブレーキペダルの踏み替えを支援して、頻繁なブレーキ操作が必要となる交通状況でのドライバーの運転負荷を軽減するシステムです。

先行車両に近づいた場合

ドライバーがアクセルペダルを戻したとき、システムがブレーキを作動させ、ドライバーが車間距離を維持することを支援します。

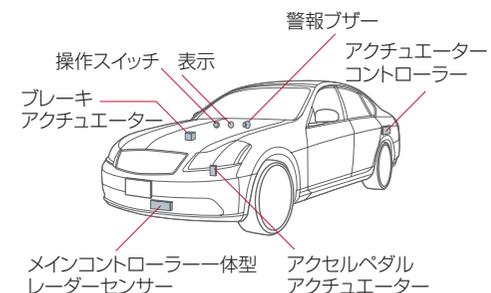
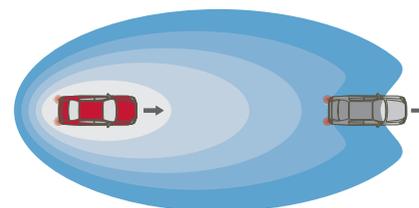
※ドライバーがアクセルペダルを踏んでいないときに限り、システムがブレーキを作動させます。



ドライバーのブレーキ操作が必要な場合

(先行車両が減速したときなど)

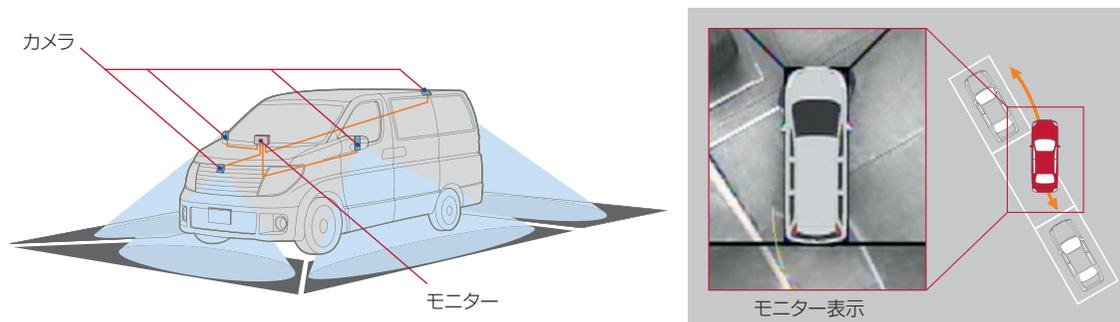
表示と音でドライバーへ報知するとともに、アクセルペダルを戻す方向に力を発生させ、ブレーキペダルへの踏み替えを支援します。



安全への配慮

アラウンドビューモニター

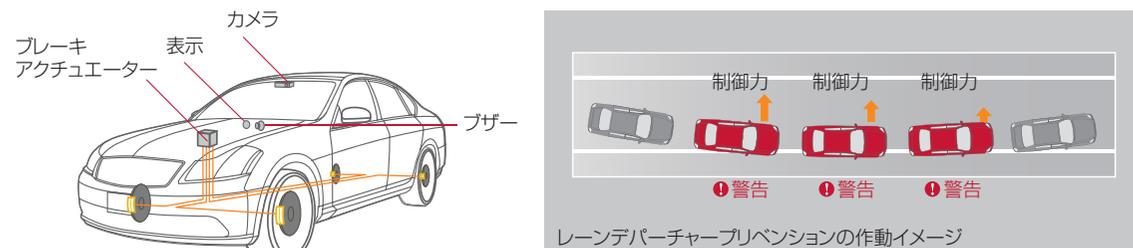
車両の前後左右に取り付けたカメラの映像を合成し、運転席のインストルメントパネル上のモニターにクルマの周囲の状況を俯瞰で表示するシステムです。駐車時に路面の駐車枠と自車の位置関係を表示することにより、パーキングスペースに簡単に駐車できます。クルマのまわりをリアルタイムで分かりやすく表示する、実用性の高い技術です。



危険な状態になりそうなときも安全な状態に戻すようドライバーをサポートします

レーンデパーチャープリベンション

ドライバーが意図せずに、車両がレーンマーカーに近づくとき、インストルメントパネルへの表示と音でドライバーに報知するとともに、車線内にクルマを戻す力を発生させ、ドライバーの運転操作を支援します。



Link

ほかに、インテリジェントクルーズコントロール（低速追従機能付）、アクティブAFS、バックビューモニター、サイドブラインドモニターなどがあります。詳しくは、次のホームページをご覧ください。

<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/INTRODUCTION/COMFORTABLE/>

Link

ほかに、レーンデパーチャーワーニング、4輪アクティブステア、EBD、ABS、ブレーキアシスト、VDCなどがあります。詳しくは、次のホームページをご覧ください。

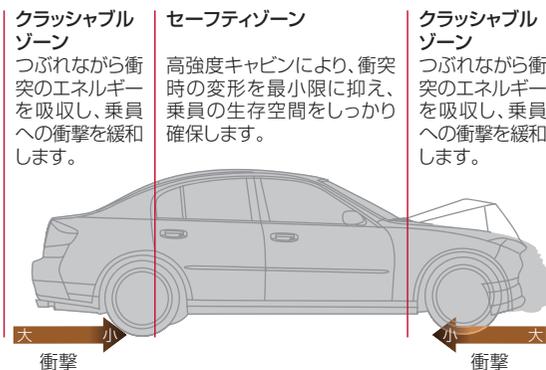
<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/INTRODUCTION/RECOVER/>

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・	
2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客さまのために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119

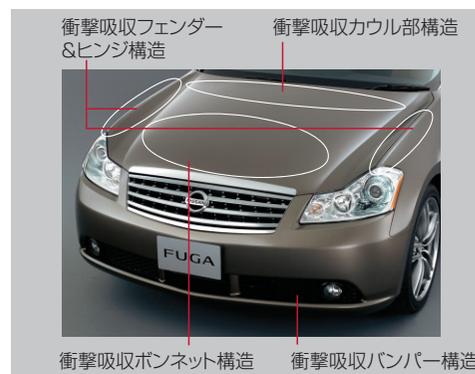
万が一衝突が避けられないときに被害を最小限にとどめます

コンパティビリティ対応ゾーンボディ

日産のゾーンボディは「クラッシュアブルゾーン(衝撃吸収ボディ)」で衝撃を吸収し、「セーフティゾーン(高強度キャビン)」で乗員を守るボディ構造になっています。2002年発売の「マーチ」以降は、ゾーンボディの構造をさらに進化させ、自車の保護性能向上と相手車両への加害性低減を両立した、コンパティビリティ対応ゾーンボディを採用しています。また、歩行者との衝突を想定し、頭部への衝撃を緩和するボンネットやフェンダー、カウル周辺部のエネルギー吸収性を向上、フロントバンパーにも脚部への衝撃を緩和する吸収材を採用した、歩行者傷害軽減ボディとしています。



ゾーンボディの構造



歩行者傷害軽減ボディ(フーガ)

Link

ほかに、インテリジェントブレーキアシスト、前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト、SRSエアバッグシステム、前席アクティブヘッドレストなどがあります。詳しくは、次のホームページをご覧ください。
<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/INTRODUCTION/UNAVOIDABLE/>

クルマ社会への取り組み

安全なクルマ社会の実現のため官公庁や他企業との連携を強化

クルマの安全技術だけでは、事故をなくすことはできません。そのため日産は、安全なクルマ社会の実現に向け、官公庁や他企業などとの連携強化にも努めています。ITSを活用した実証実験プロジェクトの実施、ドライバー・歩行者に対する安全意識啓発活動など、幅広い連携から生み出される知見の活用と継続的な協働の拡大により、死亡・重傷者数をゼロにまで減らすことを目指しています。

- はじめに 1
- CEOメッセージ 2
- CSR対談 5
- 日産のCSR 10
 - 日産のCSRの発展プロセス 11
 - 日産CSR重点9分野 17
 - 日産CSRスコアカード 20
 - ステークホルダー エンゲージメント2006 24
- 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
 - 「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
 - コーポレートガバナンス 29
- ステークホルダーへの価値の向上 36
 - お客さまのために 37
 - 株主・投資家の皆さまとともに 44
 - 社員とともに 46
 - ビジネスパートナーとともに 54
 - 社会とともに 60
- 地球環境の保全 71
- 安全への配慮 100
 - 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
 - パフォーマンスデータ 116
 - 事業等のリスク 118
 - 第三者意見書 119

ITSを活用して交通事故低減や渋滞緩和を目指す「SKYプロジェクト」*

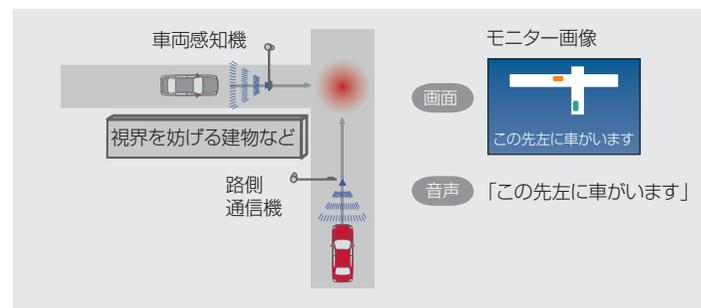
日産は、最先端の情報通信技術で「人」「道路」「車両」を一体のシステムとするITSを活用し、交通事故低減や渋滞緩和を目指したSKYプロジェクトを、2006年10月から神奈川県において開始しました。SKYプロジェクトは、道路上にある通信設備などのインフラとクルマとの間で連携を行い、周辺車両の状況や自車を取り巻く交通環境の情報を利用して、主に出合い頭事故の低減やスクールゾーンの安全、渋滞緩和と最速ルートの提供に取り組む実証実験プロジェクトです。また、今回の実験の特徴は、一般のお客さまに日常の使用過程でシステムの受容性を評価していただくもので、1万台規模の参加を得て実施中です。

これまでも日産は、安全なクルマづくりの推進、統計交通情報と最新のVICS情報をもとに渋滞を予測してルート案内する「カーウイングス」の投入など、クルマでできる交通問題の解決に取り組んできました。今回のSKYプロジェクトは、路車間通信や歩行者検知により、安全性の向上や渋滞緩和を一段と進化させています。まずは神奈川県でITSの効果を検証し、成功事例を築き、これを日本全国、そして世界へ広げていきたいと考えています。

*SKYプロジェクト(スカイプロジェクト): Start ITS from Kanagawa, Yokohamaプロジェクト

出会い頭事故低減を目的とした情報提供システム

出会い頭事故が多い見通しの悪い交差点で、見えない位置にいる車両の存在情報が得られます。



速度超過時情報提供システム

スクールゾーンなどでスピード超過時に、減速を促す情報が得られます。



プローブ情報活用による動的経路誘導システム

従来より高密度な交通情報を活用することで、速く、高精度なルートが得られます。



- はじめに 1
- CEOメッセージ 2
- CSR対談 5
- 日産のCSR 10
 - 日産のCSRの発展プロセス 11
 - 日産CSR重点9分野 17
 - 日産CSRスコアカード 20
 - ステークホルダー エンゲージメント2006 24
- 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
 - 「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
 - コーポレートガバナンス 29
- ステークホルダーへの価値の向上 36
 - お客さまのために 37
 - 株主・投資家の皆さまとともに 44
 - 社員とともに 46
 - ビジネスパートナーとともに 54
 - 社会とともに 60
- 地球環境の保全 71
- 安全への配慮 100
 - 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
 - パフォーマンスデータ 116
 - 事業等のリスク 118
 - 第三者意見書 119

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
●日産のCSRの発展プロセス	11
●日産CSR重点9分野	17
●日産CSRスコアカード	20
●ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
●「日産バリューアップ」進捗状況・	
2006年度決算概況	26
●コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
●お客さまのために	37
●株主・投資家の皆さまとともに	44
●社員とともに	46
●ビジネスパートナーとともに	54
●社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
●パフォーマンスデータ	116
●事業等のリスク	118
●第三者意見書	119

思いやりの心でつなげる交通安全への願い、ハローセーフティキャンペーン

日産は日本において、1972年から、「ハローセーフティキャンペーン」という交通安全活動を実施しています。2003年からは、子ども向けの安全啓発に加え、高齢者にも対象を広げ、地域に根ざした草の根活動を、春・秋の全国交通安全運動と夏休み期間中の年3回実施しています。主な活動内容は、全国1,380地区の交通安全協会や公的プラネタリウム(約20ヵ所)での啓発番組の上映、夕暮れ時や夜間での歩行者視認性向上のための反射材ストラップの提供などです。また1987年から、社員の募金活動による交通安全教材の寄贈も行っています。

35回目となる2006年度は、飲酒運転による重大死亡事故の続発にともなう緊急対応として、「親子で防ごう飲酒運転」を2006年末に実施しました。



ハローセーフティキャンペーン
「飲酒運転防止用キーホルダー」

交通事故低減と渋滞緩和を目的に、信号機と協調したITSを検証実験

日産は2007年3月、日産テクニカルセンター(神奈川県厚木市)構内でクルマと信号機が通信でつながる信号機協調ITSの開発に向けた検証実験を開始しました。テクニカルセンター構内を走る東西2km、南北1kmの幹線道路に一般道と同じ信号機や光ビーコン通信機を設置。今後、ここを走行する社員の車両数百台にビーコン通信機を搭載し、この環境を活用して、交通量に応じて車両側と歩行者側の信号時間や変更タイミングを最適化したり、右折待ち車両の台数を把握して右折信号の時間を調節するなど、路車間通信による高度な交通システムを実現するためのさまざまな研究を行っていきます。

子どもたちを事故から守る、米国での安全推進活動

米国では自動車事故が子どもの最大の死因であり、2005年の統計によると、米国全土で毎日6人の子どもたち(15歳未満)が交通事故で亡くなっています。そして、その原因のひとつが、チャイルドシートの8割以上が誤った使い方をされているという現実です。北米日産は自動車メーカーとして、こうした被害を少しでも軽減させたいとの願いから、「クエスト・フォー・セーフティ」や「スナッグ*・キッズ」というプログラムを通じて、安全確保に取り組んできました。

「スナッグ・キッズ」は日産やインフィニティのクルマをご利用の皆さまに、それぞれの車種や子どもの体型に合うチャイルドシートの情報を提供するオンライン・ガイドです。日産やインフィニティの各ウェブサイト上で、さまざまなメーカーによるチャイルドシートのリストや、正しい装着の仕方に関するアドバイスなどを提供しています。



クエスト・フォー・セーフティ

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客さまのために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119

「クエスト・フォー・セーフティ」プログラムは、チャイルドシートの安全性への関心が低い地域の保護者への啓発活動として、日産が1997年から実施しているものです。英語とスペイン語による無料の安全セミナーを開催し、チャイルドシートの正しい使い方を保護者に説明したり、チャイルドシートを選ぶ際の簡単な参考資料として「クエスト・フォー・セーフティ・リファレンス・カード」を配布しています。

※スナッグ:ジャストサイズで居心地がいいこと

飲酒運転撲滅に取り組む、チャリティのためのウォーキング・プログラム

米国運輸省の高速道路安全局によると、死亡事故の41%が飲酒運転に関係しています。北米日産会社は2005年から、飲酒運転の撲滅に取り組むNPO「MADD (Mothers Against Drunk Driving)」が毎年実施している、「Strides for Change 5K」というウォーキング・プログラムの全米スポンサーになっています。このイベントは、飲酒運転撲滅のための呼びかけや募金活動、被害者支援、未成年者の飲酒防止をうながすことを目的に、地域社会が中心となって、5kmの距離を楽しみながらウォーキングするというものです。

日産はスポンサーとして、そして子どもの安全を守る取り組みの一環としてこのイベントに参加。安全技術の資格をもつ日産社員が、チャイルドシートの使い方の実演を行ったり、ウォーキングの参加者に適切なシートを選ぶためのガイドを配布したりしています。また、全米各地の日産社員もチームを組んで歩き、募金を呼びかけています。

飲酒運転撲滅を掲げるMADDと、安全への取り組みを推進する日産が協力することにより、このウォーキングは交通事故の防止に対する社会の意識向上や資金集めに役立てられています。「Strides for Change 5K」には毎年1万人以上が参加し、総額110万ドル以上もの募金を集めています。

日産は自動車メーカーとして、こうした啓発活動を通して、運転時の判断がどのような結果をもたらすかをドライバーにつねに意識してもらうことが重要だと考えています。

広州市でニッサン・セーフティ・ドライビング・フォーラムを開催

中国では自動車の急速な普及により、安全対策が大きな課題となっています。日産は、2005年11月、運転技術の向上と安全運転の啓発を目的とした「ニッサン・セーフティ・ドライビング・フォーラム」を、北京で開催しました。こうしたイベントが日本の自動車メーカーによって開催されたのは初めてのことで、日産のお客さまや地元のメディアが多数参加しました。

2006年は、中国道路交通安全協会とのタイアップにより、中国4カ所で開催しました。広州国際モーターショーと並行して、2006年7月24日から8日間にわたり広州市で開かれたフォーラムでは、インスト



飲酒運転撲滅を目指すチャリティウォーキング・プログラム (米国)



中国で安全教育を実施

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・	
2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客様のために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119

ラクターの指導のもと、ブレーキングやコーナリングなどの運転技術を学ぶプログラムを実施しました。また参加者が日産車に試乗し、アンチ・ロック・ブレーキ・システム (ABS) やビークル・ダイナミック・コントロール (VDC) などの安全技術、「ティーダ」を使っでのロールオーバーシミュレーションを体験していただきました。

日産の安全に対するアプローチを訴求するとともに、クルマが人を守る「セーフティ・シールド」の考え方など、事故被害のないクルマ社会を実現するための取り組みを中国の皆さまに紹介することができました。日産は今後も、中国各地で安全運転啓発活動を継続する計画です。

中国で「高校生交通安全知識コンテスト」を開催

日産 (中国) 投資有限公司は、中国の高校生を対象に「交通安全知識コンテスト」を開催しました。交通事故件数が増加傾向にある中国において、とくに青少年層における交通安全への関心や知識の向上を図るために企画されました。コンテストは、基本的な交通ルールや自動車の安全装備に関するクイズに始まり、参加グループがそれぞれの交通安全についての意見を披露するというものです。北京、上海、広州、成都において地区予選が行われ、2006年10月、北京での最終本選で成都の高校生グループが優勝しました。この最終本選の様子は、中国中央テレビ台によって中国全土に放映されました。また、コンテスト優勝グループが11月に東京の日産本社を訪問、追浜工場 (横須賀市) の自動車組み立て工場なども見学しました。



中国で開催された「交通安全知識コンテスト」

Messages from Our Stakeholders ステークホルダーからのメッセージ

安全な交通社会づくりをともに目指して —MADDと日産



MADDナショナル (米国)
チーフディベロップメントオフィサー
クリスティ ヘンセル氏

MADD (Mothers Against Drunk Driving) は飲酒運転の撲滅、被害者支援、未成年者の飲酒防止に取り組んでいます。北米日産会社は2005年から私たちの活動を支援しており、MADD主催のウォーキング・プログラム「Strides for Change 5K」のスポンサーになっています。

このイベントは、ウォーキングという楽しく健康的な活動を通じて、安全な社会の構築に寄与する機会を提供するもので、多くの会社員やそ

の家族が参加しています。全米30都市で開催されており、オンラインでの参加も可能です。

日産は「クエスト・フォー・セーフティ」や「スナッグ・キッズ」などの安全プログラムを積極的に実施しており、「Strides for Change 5K」の会場ではチャイルドシートの正しい使い方の指導を行っています。安全な社会をつくり、人びとの生活を豊かにするため、今後もぜひ日産と協力していきたいと思っています。